

色彩漆の開発と販売

有限会社能作うるし店 代表取締役 岡 裕之*

■技術開発の背景

弊社は、初代能登屋作太郎が1780年に金沢市にて創業し、現在の六代目に至る二百三十余年、金沢漆器、輪島塗、山中漆器などの漆器産地へ漆材料や道具を販売してきた。

特に漆製造では、漆器の用途や産地塗り職人の細かな要望に対応して、長年培った技術で高品質な漆を精製している。また、工業試験場と、ナノオーダーの酸化亜鉛粒子を利用した熱水や日光で変色しにくい黒色漆など、漆の高性能化に係る技術開発を行ってきた。

黒色や赤色で有名な漆器であるが、近年はカジュアルな色彩が求められている。平成24年度に工業試験場で開発された光輝性雲母顔料の利用によるパールメタリック調の色彩漆（以下パール漆）は、新しい色彩の展開を可能とし、弊社で本技術を活用している。

■技術開発の内容

工業試験場で開発されたパール漆は、白銀色と青色であり、弊社は、さらに桜色や新緑色、黒鉄色などカラーバリエーションを増やして、新しい色彩の漆製品を開発した。開発では、少量で発色に優れた色彩漆を製造するため、小型の精漆機(図1)による最適な加熱・攪拌条件について検討した。

パール漆は、漆に重量で50wt%程度、雲母材を配合するため、塗料として粘度が非常に高くなる。開発当初は、塗師職人から刷毛目跡が残り過ぎるとか、明るい色調は色の再現性が低いという意見が多かった。

しかし、刷毛目跡を文様とする塗り方などの工夫や細かな精漆条件の調整を行った結果、お客様から「塗りの手作り感があり、見る角度により色味が異なるので綺麗」と好評を得ている。



図1 精漆機による加熱・攪拌



図2 漆器製品の写真

■製品の特徴

- (1) 従来にはないカジュアルなパール調の色彩。
- (2) 日光や熱水等で変色しにくい。
- (3) 色彩漆塗りの二重金属カップは、強度や保温性に優れる。

色彩漆塗りの漆器(図2)は、平成26年の販売開始後、金沢駅店で大きく売上実績を伸ばし、若手層への購買にも繋がっている。

■今後の展開

今後もカラーバリエーションを増やすとともに、安定した品質の漆を製造して、産地企業とともに、お客様に喜ばれる色彩の漆器開発を行っていく。

* 代表取締役 Email: nosaku-urushi@utopia.ocn.ne.jp

代表者名: 代表取締役 岡 裕之

住 所: 〒920-0962 金沢市広坂1-1-60

TEL 076-225-7345 FAX 076-263-8122